

教科の目標	指導・評価の重点および工夫点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>① 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>② 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>③ 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</p>	<p>① 習熟度別少人数授業を実施し、個に応じた指導を充実させる。</p> <p>② 夏季休業中に、学習教室を実施する。</p> <p>③ 夏季休業中に、基礎・基本のより一層の定着を図るため、課題を準備する。</p> <p>④ 定期考査、単元テスト、小テストの実施や定期考査の解き直し、図形分野におけるICT機器を活用した授業や単元の振り返り等を通して、個々の生徒が学習を振り返る場面を設ける。</p>	<p>① 既習事項を生かして個々で考え、新たな解答方法を見い出す。</p> <p>② 論理的な表現力を身に付けるため、自分の意見を数学的な表現を用いてまとめ、説明する。</p> <p>③ ICT機器を活用して他者と考え方を共有し、問題に対して様々な視点から考察する。</p>	<p>① 授業につながりをもたせるために、授業のはじめに前時の復習を行う。</p> <p>② 長期休業中の期間を、個々の生徒の学習を充実させる良い機会と捉え、学習教室を設定して学習する時間を確保する。</p> <p>③ 授業ごとの目標を明確にする。また、単元ごとの振り返りシートを通して、目標の達成度を確認する。</p>	<p>① 定期考査だけでなく各単元の進度に応じた単元テストを実施する。</p> <p>② ワーク、プリント、レポート等の点検や、振り返りシートを通して、生徒の学習状況を適切に評価する。</p> <p>③ 個々の生徒に長期休業日の前に、学習状況を伝えることにより、各自の学習の課題を明確にする。</p> <p>④ ICT機器も活用しながら、課題のやり取りを行う。</p>

◎単元(1～数十時間の学習内容のまとめ)は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICTとの関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 5	第1章 「式の計算」 1節 式の計算 2節 文字式の利用	・デジタル教科書 ・タブレット	16	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な整式の加法と減法および単項式の乗法と除法の計算をすることができる。 具体的な事象の中の数量の関係を、文字を用いた式で表したり、式の意味を読み取ったりすることができる。 文字を用いた式で数量および数量の関係を捉え説明できることを理解している。 目的に応じて、簡単な式を変形することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な数の計算や既に学習した計算の方法と関連付けて、整式の加法と減法および単項式の乗法と除法の計算の方法を考察し表現することができる。 文字を用いた式を具体的な場面で活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字を用いた式の必要性を実感して粘り強く考え、文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
6	第2章 「連立方程式」 1節 連立方程式 2節 連立方程式の利用	・デジタル教科書 ・タブレット	16	<ul style="list-style-type: none"> 二元一次方程式とその解の意味を理解している。 連立二元一次方程式の必要性と意味およびその解の意味を理解している。 加減法や代入法によって、簡単な連立二元一時方程式を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一元一次方程式と関連付けて、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 連立二元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 連立二元一次方程式の必要性を実感して粘り強く考え、連立二元一次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 連立二元一次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

7	3章 「1次関数」 1節 1次関数 2節 1次関数と 9 方程式 3節 1次関数の利用	・デジタル 教科書 ・タブレット	19	<ul style="list-style-type: none"> 一次関数について理解している。 変化の割合、傾き、切片の意味を理解している。 一次関数のグラフをかくことができる。 一次関数の式を求めることができる。 二元一次方程式を、関数を表す式とみるることができる。 事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一次関数の必要性を実感して粘り強く考え、一次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 一次関数を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
10	第4章 「図形の性質と合同」 1節 平行線と角 11 2節 三角形の合同 3節 証明	・デジタル 教科書 ・タブレット	19	<ul style="list-style-type: none"> 平行線や角の性質を理解している。 多角形の角についての性質が見いだせることを知っている。 多角形の内角、外角の大きさを求めることができる。 平面図形の合同の意味および三角形の合同条件について理解している。 証明の必要性和意味およびその方法について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確認説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 証明の必要性を実感して粘り強く考え、平面図形の合同について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
12	第5章 「三角形と四角形」 1節 三角形 1 2節 四角形	・デジタル 教科書 ・タブレット	20	<ul style="list-style-type: none"> 定義と定理の意味を理解している。 いろいろな三角形や四角形の定義と性質を理解している。 いろいろな図形の性質や条件などを、記号を用いて表すことができる。 三角形や平行四辺形の基本的な性質を使って、角の大きさや辺の長さを求めることができる。 平行四辺形になるための条件を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見いだしたりすることができる。 三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 三角形や四角形の基本的な性質の必要性を実感して粘り強く考え、三角形や四角形の基本的な性質について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 三角形や四角形の基本的な性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
2	第6章 「データの利用」 1節 データの散らばり 2節 データの傾向と 調査	・デジタル 教科書 ・タブレット	8	<ul style="list-style-type: none"> 四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解している。 コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し箱ひげ図で表すことができる。 問題を解決するために、箱ひげ図からデータの傾向を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 四分位範囲や箱ひげ図の必要性を実感して粘り強く考え、データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 四分位範囲や箱ひげ図を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようしたり、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようしたりしている。
3	第7章 「確率」 1節 確率	・デジタル 教科書 ・タブレット	7	<ul style="list-style-type: none"> 多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数を基にして得られる確率の必要性和意味を理解している。 同様に確からしいことの意味、確率の求め方、確率の範囲について理解している。 簡単な場合について、樹形図や表などを用いて、確率を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同様に確からしいことに着目し、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現することができる。 確率を用いて不確実な事象を捉え考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 場合の数を基にして得られる確率の必要性を実感して粘り強く考え、不確実な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 確率を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。

評価材および評価方法	定期考査、単元テスト、小テスト、 授業課題、問題集	定期考査、単元テスト、小テスト、 授業課題、問題集	提出物（ワーク、レポート、振り返りシート）などの取組状況、ドリル
------------	------------------------------	------------------------------	----------------------------------